

小学校第4学年社会科学学習指導案

日 時 平成26年2月 日 ()

指導者 4年担任 教諭 東 篤哉

1 単元名 「県のように、どうなっているの」

(日本文教出版 3・4年下 p.102～p.117)

2 単元について

(1) ねらいについて

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容(6)「県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。」のア「県(都、道、府)内における自分たちの市(区、町、村)及び我が国における自分たちの県(都、道、府)の地理的位置、47都道府県の名称と位置」、イ「県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」を受けて設定されている。

ここでは、熊本県の地形や産業の概要について、地理的な位置や全体の地形、主な産業の概要、交通網の広がり、主な都市の位置といった県の特色を学習する。地理的な位置については、県内における山田小学校、山江村の位置、国内における熊本県の位置を取り上げ、隣接する市町村や県の位置関係、日本全体から見た位置などについて捉えられるようにする。県全体の地形や主な産業の概要については、県内の主な山地や平地などの位置や広がり様子と、県全体に見られる主な産業の概要や分布を取り上げて調べ、特色が捉えられるようにする。交通網の広がりや主な都市の位置については、県内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港などの位置、主な都市の位置を取り上げて調べ、県全体での広がりや位置関係を捉えられるようにする。地形や産業、交通網や都市は互いに密接に関わり合っており、児童にとって社会的事象が相互に関連していることを捉えやすい教材といえる。また、自分たちの県を詳しく調べていくことで、児童に“自分たちの県”という意識がもてるようになり、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができると考える。

(2) 系統について

3・4年上

- 1 わたしたちの住むまちどんなまち
- 2 市のようにどうなっているの

3・4年下

6 わたしたちの県のようにす(本単元)

- ① 県のようにどうなっているの
- ② 土地にあわせてくらしは、どんなようすなの

5年

4 日本の国土のようす

- ① 国土は、どのように広がっているの
- ② 自然に合わせて、人々はどのようにくらししているの

(3) 児童の実態（男子18人，女子13人，計31人）

ア 学び方についての実態

1学期の学習では，単元導入時に学習問題を設定し，資料を活用したり，実際に調査をしたりして調査し，分かったことをまとめていくという問題解決的な学習に取り組んできた。気づきや疑問から学習問題を設定したり，問題を具体的に調査したりする力は伸びてきている。

また，地域の身近な社会的事象を具体的に学習するためか，学習に意欲的に取り組む姿も見られる。

ただし，資料から必要な情報を読み取ったり，資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえたりする等「資料の効果的な活用」については，まだ課題が多い。

イ 本単元に関わる力及び関心・意欲についての実態より 単位：人

項 目	とても	まあまあ	あまり	いいえ
○社会科の内容で，知りたい，調べたいと思うことはありますか。	11	16	2	2
○調べる方法を考えることは得意ですか。	10	15	5	1
○資料を使って調べることは得意ですか。	20	10	1	0
○地域の人に質問したり，インタビューすることは得意ですか。	9	15	6	1
○調べたことをまとめることは得意ですか。	15	10	5	1
○調べたことを全体で発表することは得意ですか。	9	11	7	4
○調べたことを友だちと伝え合う学習は得意ですか。	15	15	1	0
○未調査				

本単元に関わる力及び関心・意欲についての実態調査の結果から，社会科に対し，多くの児童が得意意識を持っていることが分かる。見いだした問題を自分なりの方法で解決する問題解決的な学習についても，多くの児童が好意的に感じていることが分かった。一方で，調査したことを出し合う「共有」の場面については，活発に意見が出されるものの，発表がやや一部の児童に限られているということが分かる。展開の工夫・改善が必要である。

※本単元に関する実態調査は未実施（申し訳ありません）

(4) 指導にあたって

- 導入では、前時までの学習で活用した白地図等の資料を黒板に提示し、本時の学習に必要な基礎的・基本的な事柄の指導徹底を図りたい。
- 地形や土地の高さ、土地の利用、交通網を関係づけて県の特徴を考えさせるために、タブレットP Cを活用する。この時間までに作成した3つの資料をデジタル化し、タブレットP C上で重ね合わせ、そこから見えてくることを言語化させ、熊本県の特徴を考えさせたい。
- 本時は単元のまとめの時間となるので、考察が「思いつき」になることがないように、資料から分かること、これまでの学習で考えたことを考えさせるようにする。
- 全体での伝え合いの場面では、各グループでタブレットP C上の資料に書き込みをした画面を電子黒板に映し出し、積極的な意見交流を図りたい。
- また、話し合いが停滞したり堂々巡りしたりすることがないように、指導者も適時話し合いに参加するようにする。板書を活用して意見を整理したり関連づけたりし、学び合いを可視化するように努め、児童の考えを広げ深めていきたい。

I C T活用のポイント

①教師の活用

- ・児童が作成した白地図をデジタル化し、タブレットP C上で重ね合わせることができるようにすることで、複数の資料を関係づけて情報を読み取ることができるようにする。

②児童の活用

- ・タブレットP C上で重ね合わせた資料に書き込みをしたり、その資料を電子黒板上に映し出し説明をしたりすることを通し、児童が「考えを共有」しながら、学びを広げ・深めることができるようにする。

3 単元の見目標

自分たちの県について関心をもち、県の位置や地形、土地利用、交通網の様子などについて、自分たちの住んでいる村と関連づけながら、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県の特徴を考えるようにする。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
県の位置や形、県全体の地形や交通の様子などに関心をもち、意欲的に調べたことをもとに、自県の特徴に関心を深め、地域社会に	県の土地の様子や土地利用、交通の様子などはどのようなになっているのか、学習問題をつかみ、調べたことをもとに、県の特徴を考え、適切	次のことについて、県の地図を活用したり、白地図にまとめたりして、具体的に調べている。 ・自分たちの県の位置	県全体の地形や土地の利用、交通網の様子、主な都市の位置、県における自分たちの住む村の位置、47都道府県の名称と位置が分かっている

対する誇りと愛情をもとうとする。	な言葉で表現している。	・ 県の地形の様子 ・ 県の土地利用の様子 ・ 他地域と結ぶ交通 ・ その後の地域の発展	る。
------------------	-------------	---	----

5 指導計画および評価規準（13時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	理	評価規準・評価方法
1	自分たちの村についてふり返るとともに、県の位置を確認するなどして、県の概要をつかむ。	県内の市町村で知っていることや行ったことのある場所について発表させたり、県の地図や写真、観光パンフレットをもとに気づいたことを話し合わせたりして、熊本県の概要をつかませる。	○				<u>関心・意欲・態度</u> 【発言・観察】 熊本県について、各自の体験をもとに県内の名所や施設などの位置を確認するなどして、県の概要をつかんでいる。
2	熊本県は、国土のどのあたりに位置しているのか、周囲の県や、周囲の海、半島、島などの位置を確認して、地図と方位を用いてあらわし、学習問題をつかむ。	周囲の県を調べる時は、南北を上下、東西を左右で表すことがないよう、地図を各班の机上に用意する。 4方位、8方位ともにていねいに指導し、徹底を図る。			○		<u>技能【発言・観察】</u> 熊本県の位置について、地図や方位を用いてあらわし、学習問題をつかんでいる。
3 4 5	熊本県の土地の低いところと高いところの分布について調べる。	等高線については、教科書を活用し、その見方を理解させるとともに、立体地図を用いて等高線と土地の高さとの関係をイメージできるようにする。				○	<u>知識・理解</u> 【ノート】 熊本県の土地の高さに興味をもち、低いところと高いところの分布について調べ、県の様子を理解している。

6 ・ 7 ・ 8	都市集落・農地・森林などの分布について調べる。	調べたことを白地図にまとめる学習を通し、人口が平野の一部に集中していることや、農地は河川の周辺に分布していることをとらえさせる。				○	<u>知識・理解</u> 【発言・観察・ノート】 熊本の土地利用に興味をもち、都市集落、農地、森林などの分布について調べ、理解している。
9 ・ 10 ・ 11	空港、主な港、鉄道、道路などについて調べる。	地図上で鉄道や道路を使って移動するシミュレーション活動を取り入れ、体験的に県の交通網の特色を理解できるようにする。				○	<u>関心・意欲・態度</u> 【発言・観察】 熊本の交通の様子に興味をもち、空港、主な港、JR線、高速道路、等を調べ、県の交通網の特色を理解している。
12	学習をふり返り、分かったことや考えたことをまとめる。	これまでに学習したノートや白地図などを活用して考えさせる。		○			<u>思考・判断・表現</u> 【発言・観察・ノート】 学習をふり返り、これまで調べてきたことをもとに、学習問題について自分の考えをまとめている。
13 本時	複数の資料を関係づけ、熊本の特色を考える。	作成した3つの資料をデジタル化し、タブレットPC上で重ね合わせ、そこから見えてくることを考えさせる。		○			<u>思考・判断・表現</u> 【ノート】 地形や土地の高さ、土地利用、交通網の資料を関係づけて、県の特色を考えている。

6 本時の展開

(1) 目標

「地形や土地の高さ」「土地利用」「交通網」の資料を関係づけて、県の特徴について自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

過程	学習活動，主な発問（T） 予想される児童の反応（C）	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 7分	1 これまでの学習をふり返る。 (T)県の様子についてそれぞれの項目ごとに分かったことを振り返ってみましょう。 (C)熊本県は，東は山が多く，西には海がある。 (C)県の南北に高速道路が通っている。 2 本時のめあてをつかむ。	- これまでに学習したノート，ワークシート，作成した白地図などの資料をふり返らせる。 - 本時の学習に関係する内容である。後で関連して考えることができるよう，これまでの資料を並べて掲示する。	電子黒板
	3つの資料を関係づけて，熊本県の特徴を考えよう。		
展開 35分	3 県の土地の高さや地形，土地利用，交通網の資料を関連させることを通し，県の特徴を考える。 3つの地図を重ねてみると，どうなるだろう？ (1) 個人・グループで考える。 (2) 全体で伝え合う。 (C) 高速道路や鉄道が通っているところに，人口が多い市や町がある。 (C) 県の東側は山が多くて，人口も少ない町や村が多い。 【言語活動】(話し合い活動) 3つの資料を関連させると見えてくることを，伝え合いながら自分の考えを広げ・深めていく。	- 地形，土地の高さ，土地の利用，交通網を相互に比べて関連を考えさせる。 - この時間までに作成した3つの資料をデジタル化し，タブレットPC上で重ね合わせ，そこから見えてくることを考えさせる。 能動型学習（ポイント） - これまでの学習や資料から自分の考えをもち，グループ・一斉と協働で考えながら，考えを広げ・深めていくようにする。 ◆思考・表現（ノート） B基準 「県の土地の高さや地形」「土地利用」「交通網」の3つの資料を関連させることを通し，見えてくる県の特徴を書くことができる。	電子黒板 タブレットPC

	4 自分の考えをまとめる (T) 伝え合いの中で出た友だちの意見を参考にして、「熊本県の特徴」について、まとめ直してみましよう。	A基準 B基準に加え、根拠を示しながら自分の考えを書いている。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 前時までのまとめを組み合わせで考えるように支援する。 徹底指導（ポイント） ・「思いつき」になることがないように、資料を関連させて分かることを書くようにする。	
終 末 3 分	5 学習をふり返り、次の単元の学習について知る。 (T) 次の時間からは、県内それぞれの地で、その土地に合わせた人々の暮らしについて学習します。	・本単元のふり返りをさせると同時に、次の単元の内容を紹介することを通し、学習意欲を高める。	電子黒板